

2021年11月10日

各位

会社名 株式会社西武ホールディングス
代表者 取締役社長 後藤 高志
(コード番号：9024 東証一部)
問合せ先 広報部長 川上 清人
(TEL. 03-6709-3112)

通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2021年11月10日開催の取締役会において、以下のとおり、2021年5月13日に公表した2022年3月期の通期連結業績予想を修正することといたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 2022年3月期通期連結業績予想数値について(2021年4月1日～2022年3月31日)

	営業収益 (百万円)	営業利益 (百万円)	償却前営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	親会社株主に 帰属する 当期純利益 (百万円)	1株当たり 当期純利益 (円 銭)
前回公表数値(A) (2021年5月13日発表)	456,000	9,000	67,000	0	△5,000	△16.67
今回修正予想(B)	407,000	△8,000	47,000	△16,000	△14,000	△46.64
増減額(B-A)	△49,000	△17,000	△20,000	△16,000	△9,000	—
増減率(%)	△10.7%	—	△29.9%	—	—	—
(参考)前期実績 (2021年3月期)	337,061	△51,587	1,882	△58,785	△72,301	△241.32
(参考)前々期実績 (2020年3月期)	554,590	56,823	114,535	48,770	4,670	15.18

2. 修正の理由

第2四半期連結累計期間までの業績や足もとの動向などを踏まえたことによるものです。

第2四半期連結累計期間は、度重なる緊急事態宣言の発出やその長期化、東京オリンピック・パラリンピックの無観客による開催などにより、2021年5月13日時点の想定よりも状況が悪化したことから、2021年5月13日公表数値を下回る決算となりました。

今回公表する通期連結業績予想において営業収益は、ワクチン接種の進展や段階的な行動制限の緩和などにより人々の動きが回復していくことを前提としておりますが、同公表数値の想定よりも回復時期が遅れていることにより、2021年5月13日公表数値を下回る見通しであります。

各種経費の削減、先送りなどコストコントロールを行い、通期の固定費は30,000百万円程度を削減する見通し(同公表数値における削減目標：22,000百万円)であります。営業収益が同公表数値を下回る見通しであることから、営業損失を計上する見通し、償却前営業利益は同公表数値を下回る見通し、また、経常損失を計上する見通しであります。

親会社株主に帰属する当期純損失は、雇用調整助成金の計上に加え、新横浜スクエアビル、芝公園2丁目ビルおよび新横浜西武ビルの流動化に伴う特別利益が同公表数値における想定を上回る見通しであるものの、経常損失の計上や臨時休業等による損失の計上などにより、同公表数値から拡大する見通しであります。

3. 各セグメントにおける営業収益及び営業利益、償却前営業利益の見通し

(単位：百万円)

セグメントの名称	営業収益				営業利益				償却前営業利益			
	当連結 会計年度 (今回予想)	5/13時点 公表数値比	前期比	前々期比	当連結 会計年度 (今回予想)	5/13時点 公表数値比	前期比	前々期比	当連結 会計年度 (今回予想)	5/13時点 公表数値比	前期比	前々期比
都市交通・沿線事業	133,600	△9,200	+11,002	△34,963	△5,600	△5,600	+4,217	△28,429	17,200	△5,900	+4,807	△27,408
ホテル・レジャー事業	144,800	△32,100	+60,749	△82,652	△19,300	△15,300	+34,113	△27,833	△2,300	△16,400	+35,845	△30,987
不動産事業	57,800	+2,000	+2,404	△2,664	17,700	+1,800	+2,277	+252	29,600	+1,900	+2,157	+407
建設事業	81,200	△7,800	△14,934	△30,571	4,000	+700	△58	△1,637	4,300	+600	△252	△1,788
その他	32,100	△1,300	+5,339	△12,116	△4,600	+100	+2,962	△6,474	△400	+100	+3,099	△6,042
合計	449,500	△48,400	+64,560	△162,968	△7,800	△18,300	+43,511	△64,121	48,400	△19,700	+45,656	△65,819
調整額	△42,500	△600	+5,378	+15,378	△200	+1,300	+75	△701	△1,400	△300	△539	△1,715
連結数値	407,000	△49,000	+69,938	△147,590	△8,000	△17,000	+43,587	△64,823	47,000	△20,000	+45,117	△67,535

(注) 1 調整額については、主に連結会社間取引消去等であります。

2 償却前営業利益は、営業利益に減価償却費およびのれん償却額を加えて算定しております。

都市交通・沿線事業につきましては、前述の前提のもと定期外利用を着実に取り込んでまいりますが、第2四半期連結累計期間までの業績等の状況に加え、定期利用の需要低迷は下期も続くとの想定から、営業収益は2021年5月13日公表数値を下回る見通しであります。各種経費の削減、先送りなどのコストコントロールに努めてまいりますが、営業収益が同公表数値を下回る見通しであることなどにより、営業損失を計上する見通し、償却前営業利益は同公表数値を下回る見通しであります。

ホテル・レジャー事業につきましては、前述の前提のもと、ホテルやレジャー施設、スポーツ施設の需要を着実に取り込んでまいりますが、第2四半期連結累計期間までの業績等の状況に加え、回復時期の遅れから、営業収益は同公表数値を下回る見通しであります。各種経費の削減、先送りなどのコストコントロールに努めてまいりますが、営業収益が同公表数値を下回る見通しであることなどにより、営業損失は同公表数値から拡大、償却前営業損失を計上する見通しであります。

不動産事業につきましては、東京ガーデンテラス紀尾井町におけるオフィステナントの入居や分譲地販売を見込んでいることから、同公表数値を上回る見通しであります。

建設事業につきましては、第2四半期連結累計期間までに受注した民間住宅工事などの収益貢献が想定よりも後ろ倒しとなる見込みであることなどにより、営業収益は同公表数値を下回る見通しであります。利益率の改善やコストコントロールなどにより、営業利益、償却前営業利益ともに同公表数値を上回る見通しであります。

その他では、第2四半期連結累計期間までの業績等の状況などにより、営業収益は同公表数値を下回る見通しであります。コストコントロールに努めることなどにより、営業損失、償却前営業損失ともに同公表数値から縮小する見通しであります。

(注) 上記予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後さまざまな要因によって予想数値と異なる場合があります。

以上